

報告

北海道版脳卒中地域連携クリティカルパス 「脳卒中あんしん連携ノート」の施行状況

齊藤正樹* 板本孝治* 中村正弘* 三國信啓*
中川原譲二** 三浦哲嗣** 寶金清博***
深津恵美****

北海道地域連携クリティカルパス運営協議会*
同、副会長** 同、会長***
北海道保健福祉部健康安全局地域保健課****

はじめに

本協議会では、脳卒中の再発予防と脳卒中医療の質の向上を目標に「脳卒中あんしん連携ノート」とITを活用した運用およびデータベース化「地域連携追跡システム」を平成23年8月から試行し（北海道医報1116:36, 2011）、平成24年10月1日から本格運用とした。

これまでの経緯と「脳卒中あんしん連携ノート」

北海道地域連携クリティカルパス運営協議会を設



置し、北海道と連携して、パス開発およびシステム開発ワーキング（表1）による検討を重ね、脳卒中あんしん連携ノート（以下、ノートと記載）とweb登録による運用システムを開発した。

ノートはA5判でオールカラーである。ビニールカバーのポケットには高血圧手帳や薬の手帳も収まる。デザインは旭川市にある株式会社昇夢虹（しょうむこう）の西嶋美代子氏、小川健一氏に依頼した。表紙には北海道をイメージする明るい背景に、脳卒中急性期からリハビリを行い、退院後も笑顔で元気に前向きに生きていく様子を描き、他に作成した紹介ポスター等には、患者とそれを支えるかかりつけ医と専門医が一緒に再発予防を目指し自転車のペダルをこぐ姿が描かれた。脳卒中を発症した患者がこのノートを携帯し、脳卒中専門施設の退院後も、再び、馴染みのかかりつけ医のもとでの危険因子の管理を継続する（写真）。

表1

○北海道版クリティカルパス開発ワーキンググループ		
札幌溪仁会病院	診療部長	板本 孝治
北海道脳神経外科記念病院	脳神経外科医長	鎧谷 武雄
坂本医院	院長	坂本 仁
北海道介護支援専門員協会		
（北広島訪問看護ステーション四恩園）	所長	町田 丸美
北海道総合在宅ケア事業団訪問看護部	業務点検室長	鹿毛美千子
北海道苫小牧保健所	理療専門員	相坂智紗子
札幌医科大学附属情報センター	室長	大西 浩文
札幌医科大学附属情報センター	助教	中村 正弘
札幌医科大学神経内科学講座	助教	齊藤 正樹*
○システム検討ワーキンググループ		
札幌溪仁会病院	リハビリテーション部長	青山 誠
時計台記念病院	課長	赤澤 孝司
旭川赤十字病院	院長	牧野 憲一
中村記念南病院	院長	岡 亨治
札幌白石脳神経外科病院	副院長	高橋 明
市立函館病院	副院長	丹羽 潤
札幌医科大学附属情報センター	室長	大西 浩文
札幌医科大学神経内科学講座	助教	齊藤 正樹
札幌医科大学附属情報センター	助教	中村 正弘*
		*グループリーダー

ノートの構成はクリティカルパスとしての要件を満たし、患者教育として脳卒中の医療・介護・福祉の連携の仕組み、脳血管障害の症状、TIA（一過性脳虚血発作）、act-F.A.S.T、危険因子と管理目標などが記載されている。かかりつけ医と専門医を往復するパスとしての部分は、退院時基本情報、退院後の管理・治療計画、かかりつけ医および専門医への通院時の記録と評価、同意書からなり、糖尿病連携手帳+自己管理日誌+かかりつけ医と専門医の評価がその骨格である。登録は現在500例を超え、ノートの紹介を目的としたポスターおよび患者説明用リーフレットの配布を行っている。

Web登録

システムは株式会社DBPowers（代表取締役 有賀啓之氏）に開発を依頼した。同意書へのサインと、Webでの退院時基本情報の入力によりノートIDが発行され、ノートが渡される。退院後6ヵ月、1年、2年、3年に危険因子管理への評価を専門施設がweb登録する。ノートに記入された項目のすべてをWebに入力する必要はない。結果はデータベース化され、その一部をホームページに公開した（図1、2、3）。

今後に向けて

北海道でも脳卒中および急性心筋梗塞、糖尿病は今後ますます増加することが予想される。この点を意識して、ノートは、動脈硬化性疾患の疾病管理を

想定して作成されているほか、かかりつけ医と患者・家族、専門医のコミュニケーションツールとしての役割が期待されている。かかりつけ医と専門施設がノートを介して協力し合える点も好ましい。こういったメリットが注目され、全国各地から同様のノートの作成に関して問い合わせが相次ぎ、既に、香川県などで同様のノート事業が始まっている。

当協議会では、本年度は急性心筋梗塞のノートについても専門部会で検討を開始し、脳卒中から急性心筋梗塞へと裾野を広げる予定である。多忙の折であるが、循環器専門施設等のご協力をお願いしたい。

なお、この事業は都道府県単位の疾病管理という新しい取り組みであり、多くの改善の余地が残されているものの、患者側のメリットは大きいことが現場から指摘されている。

本格運用に入り、かかりつけ医の皆様、専門医の皆様の参加と参加施設の医療連携スタッフの皆様には今後も継続した新規患者登録への協力をお願いし、一緒に北海道民のために尽くしたいと考えている。

謝辞

運営協議会にご協力くださった北海道医師会常任理事 橋本洋一先生、全道各地の説明会にご参加いただいたかかりつけ医の皆様、脳卒中急性期施設・回復期施設、介護関連施設・訪問看護施設、関係行政機関等の皆様にあらためて深謝いたします。

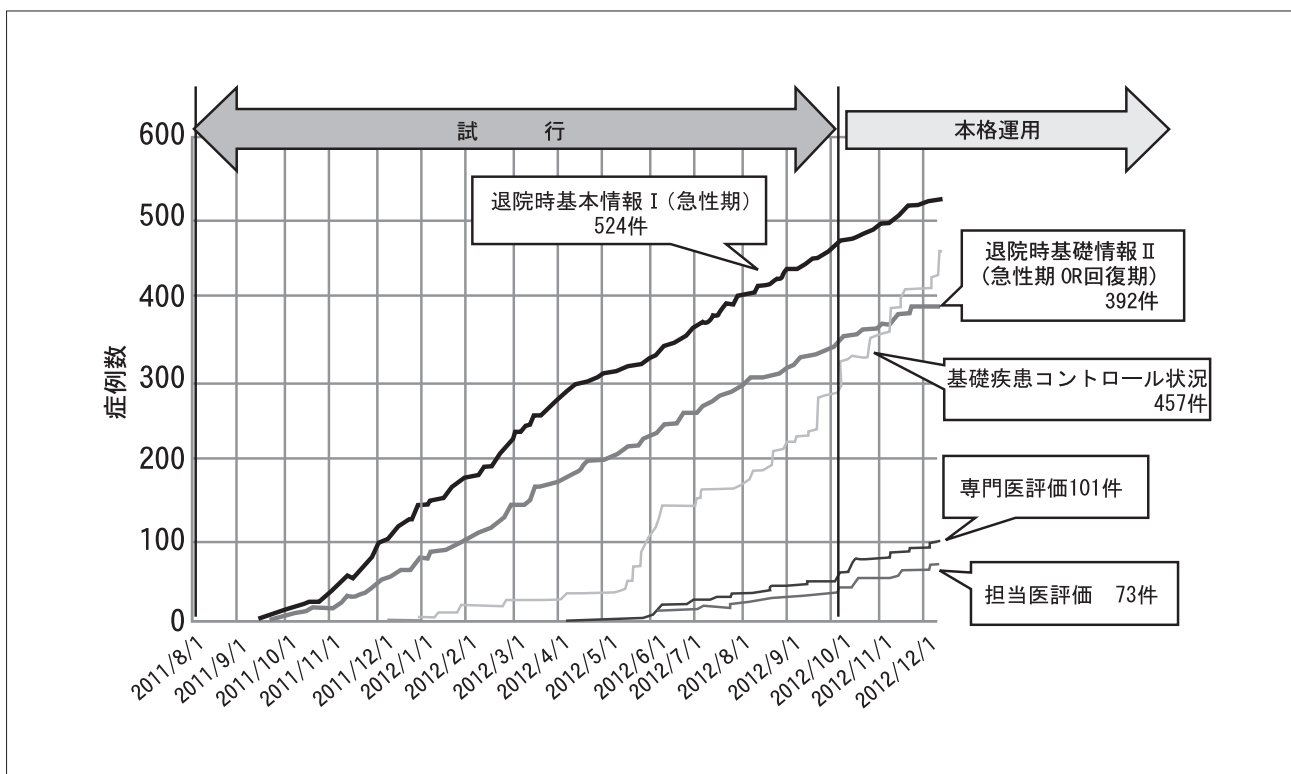


図1 脳卒中あんしん連携ノート登録件数の推移 (平成24年12月11日現在 524症例登録)

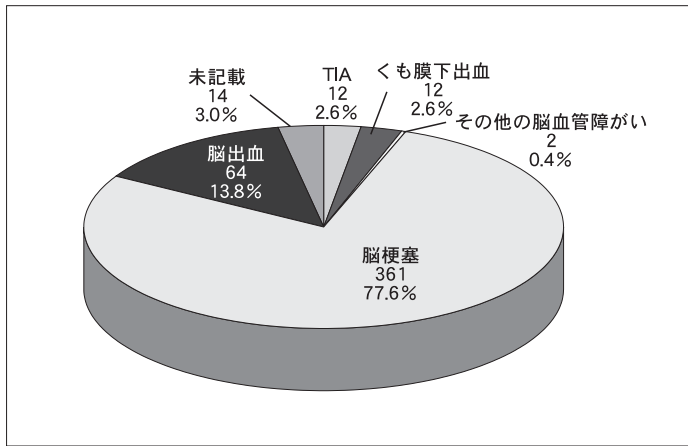


図2 疾患別症例数（平成24年9月末）

■「地域連携追跡システム」登録開始施設（平成25年1月末現在）

市立函館病院、函館中央病院、函館脳神経外科病院、札幌医科大学附属病院、中村記念病院、手稲溪仁会病院、新さっぽろ脳神経外科病院、札幌白石脳神経外科病院、北海道医療センター、札幌麻生脳神経外科病院、中村記念南病院、札幌秀友会病院、石狩幸悳会病院、北海道脳神経外科記念病院、手稲ロイヤル病院、クラーク病院、時計台記念病院、花川病院、砂川市立病院、旭川赤十字病院、旭川リハビリテーション病院、留萌市立病院、帯広厚生病院、北斗病院、道東脳神経外科病院、北星脳神経・心血管内科病院、釧路脳神経外科病院、釧路孝仁会記念病院

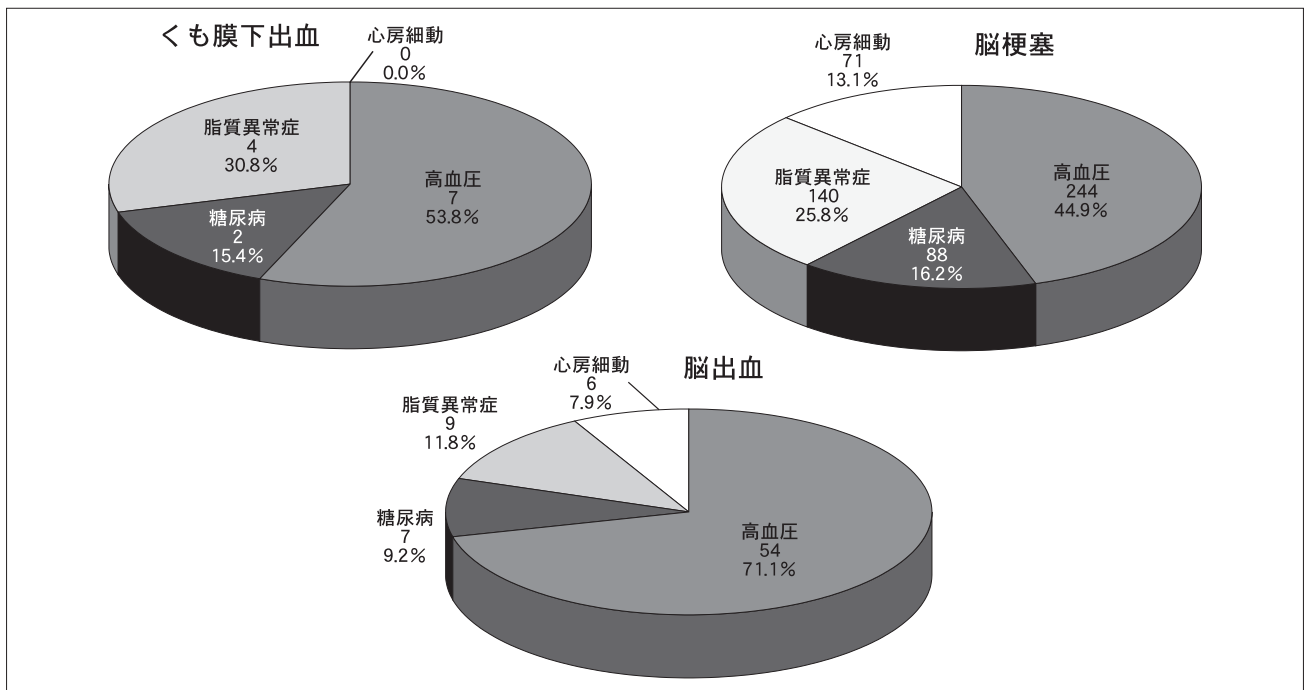


図3 基礎疾患別症例数（平成24年9月末）

北海道医師会サポートセンターのご利用について

◇情報広報部◇

北海道医師会サポートセンターでは、本会提供のメールアドレスに関するご相談だけでなく、パソコン操作やインターネット利用に関する質問対応も承っております。日頃のパソコン利用におけるちょっとした疑問点やトラブル対応の第一相談窓口として、お気軽にご利用ください。

お問い合わせ例

- パソコンをMacに変えたら使い方がよくわからない・・・ご利用方法をご案内
- プロジェクターでパソコンの映像を映したい・・・ご利用方法をご案内
- 光電話ってどうしたら使えるの・・・光電話についてご案内、取次ぎも可能
- エクセルの使い方がよくわからない・・・一般的な使い方であればご案内可能
- サポートに来てほしい・・・駆けつけ業者を手配します(有料となります)

お問い合わせ先：北海道医師会サポートセンター（平日 10:00～12:00、13:00～17:00）

○TEL： 011-738-3401

○E-mail： support@hokkaido.med.or.jp